

令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人南の風		
事業所名	グループホームアル・ソール		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市堺区甲斐町西2丁1-15		
自己評価作成日	令和7年8月25日	評価結果市町村受理日	令和7年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「その人らしい人生を全う」という言葉を常に念頭に置き、その人らしさを理解する努力を重ねています。入居したことで何かをあきらめないといけな、何かができなくなったということがないようにしたいという思いから、家族と協力して、人とのつながりや好きなことの継続を応援できたと支援しています。複合施設ならではの協力体制で、単独では難しいと感じることも柔軟に対応でき、選択肢が増える幅のあるサービス提供を大切にしています。安心のある楽しい時間を提供できるように職員一同努力しています。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770104848-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会馆3階)
訪問調査日	令和7年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体にもつ社会福祉法人が運営するグループホームです。交通の便のよい住宅街にあり、特養・デイサービスを併設した7階建て複合施設の5・6階にあります。堺市民に馴染みの千利休やオランダの帆船をイメージしたステンドグラスや装飾を施した玄関ホールからホームに上がると、木の格子戸から広がる共有空間はお洒落で上品な設えです。衛生に力を入れたフロアは清潔できれいな空気を感することができます。木のぬくもりにこだわった和・洋2種の個室には馴染みの品を配置し、それぞれが居心地よく過ごせる居室作りを力を入れています。利用者からは「ここにいたら寂しくないわ」との声を聞くことができます。「利用者と家族が共に暮らせる楽しい空間」の理念を掲げ、「利用者にとって家族に勝るものはない」と家族との絆を大切に、利用者の安心な暮らしに繋げています。管理者が「うちの自慢は家族が笑っていること。そして、それはスタッフの頑張りがあるから」と職員の真摯な姿勢を承認する職場環境は、職員の士気を高め、定着率の高さに表れています。10月に行われる、利用者・家族・職員が共に楽しむ「秋祭り」の話題など、聞こえてくる話し声や笑い声も、利用者中心のグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」という理念の下、地域に支えていただき培ってきた関係性で地域にも恩返し出来るような取り組みを施設全体で考え取り組んでいます	法人全体の理念「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」を基に、「利用者と家族が共に過ごす楽しい時間」と、グループホーム独自の理念を掲げ、「利用者にとって家族に勝るものはない」と家族との絆を大切に、利用者の安心な暮らしに繋げています。主任は、利用者職員が違和感なく自然に過ごしている日常に、理念の実践を感じています。また、理念の浸透と確かな実践は、外部評価家族アンケートの回答率の高さやコメントの内容に表れています。	事故対策・体調管理・感染症予防などの目標を立て、ケアにあたっていますが、今後は理念のさらなる実践に繋がる具体的な目標も考えていかれてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどの情報をいただきながら参加方法を提案してもらったり、近所の保育園との交流。気候の良いときに施設周辺の掃除を利用者と一緒に行い、声をかけて頂いている	コロナ禍以降、ホームでは地域の祭りに参加することは控えていましたが、感染症対策の下、徐々に交流が広がりつつあり、地域の理解と協力が深まっています。ふとん太鼓も見に行きました。近隣の保育園児の訪問は利用者の喜びにつながり、クリスマスにはホームから園児にプレゼントを届けるなど温かなお付き合いができています。散歩に行く公園での地域住民との交流もあります。利用者職員が施設の周りを掃除をしている時、近隣の方から声がかかる場面は、ごく日常的な風景となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し情報の共有を図っている。また、堺区の認知症支援部会に所属させていただいていることで、認知症の啓蒙活動や、サポーター養成講座のフォローアップ講座体験受け入れなどのお手伝いをさせて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや課題などを伝えることで他施設の取り組みや周辺地域の状況、最近の動向などテーマに挙げた内容に沿った情報をいただけることも多く、参考にさせて頂いている。	家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、知見者(介護専門学校教員)、ホーム職員等がメンバーとなり話し合っています。毎回、家族の参加が多く、家族も一緒にホームの運営に携わっています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者が積極的かつ自由に発言できる場となっており、終わった後の雑談が延々と続く雰囲気の良い会合です。昨今の物価高騰でおやつ代の負担をお願いした時には「今までよう頑張った」と労いの言葉をいただきました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症支援部会に参加、グループホームとはについて説明させていただく機会が増えた。認知症のパネル展にも引き続き参加させていただいており、ふれあい体験や見学にも対応。	市職員とは連携をとり、情報交換等で協力関係を築いています。事故報告も速やかに行っています。市グループホーム連絡会や区グループホーム連絡会に所属し、地域ケア会議への参加、市役所でのパネル展出品等を通して、認知症の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。市からの依頼で、パネル展に使うおりがみのしおりは、利用者が折って準備します。サポーター養成講座のフォローアップ講座の体験も受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会などで知識を深め、身体拘束委員会中心に施設としての方針や取り組みに対し意識の統一を図っている。家族と相談の上、足元にセンサーマットや玄関にはメロディコール等を設置安全に見守る工夫をしています。	身体拘束基本指針に基づき、2カ月ごとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催しています。研修は、法人全体で身体拘束・高齢者虐待防止に関する勉強会を実施し、職員は研修後の感想文の提出やミニテストを通して内容の理解を深めています。各フロアの入り口、エレベーターなども自由に出入りでき、ドアの開閉時に音が鳴る工夫をしています。フロアからベランダへも自由に出入りでき、閉塞感を感じさせない自由な暮らしを支援しています。主任は、職員のストレスにも配慮し、仕事とプライベートの切り替えができるように考えて勤務表を作成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会中心に知識を深め、他部署との情報を共有し、職員それぞれが自覚をもって取り組んでいます。いつの間にかできてしまった打ち身なども報告書にあげることでより安全に配慮したケアが出来るように心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の利用者がそれぞれの理由で成年後見制度を活用されています。家族の相談内容に応じて紹介させていただき、手続きの支援なども行っていただいています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書などについては入居の意志を確認させていただいた時点でお渡ししゆっくりと確認していただくように配慮しています。不安や質問に対してはいつでも連絡して頂くように伝えその都度お話をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や外出・外泊に関しては、体調不良やホームでの感染確認がなければ制限はかけていない。また外出への不安から家族みんなが集まれる場所の提供という相談も増え、その都度対応させていただいている。	ホーム理念の基となる「利用者にとって家族に勝るものなし」との思いから、利用者と家族の関係を大切にしたい支援を行なっています。家族の訪問も多く、その都度、利用者の様子を伝えたり意見や要望を聞いたりしています。毎月、担当職員が利用者の暮らしぶりや状況を伝える「利用者連絡票」は、「ホームでの様子がわかって嬉しい」と家族に好評です。写真を添えたブログの発信でも利用者の暮らしぶりを伝えています。利用者と家族が自分たちだけの大事な時間を過ごせるような多目的スペースも7階にあります。家族とホームの良好な関係は家族アンケートの高い回答率や記述コメントにも見ることができます。クリスマスには家族がピアノの演奏を披露してくれたケースもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内容に応じてSNSの活用や動画・写真を使っての対応の統一。申し送りの活用。その都度の課題に対して意見しやすい環境づくり。また意見を募りやすい方法、確実に統一できる方法などを選択しながら取り組んでいます。	毎月の会議で職員の意見を出し合っています。管理者や主任は、会議のほか、日常的に職員の意見や要望を聞いています。また、LINEを活用し、主任は意見や提案等を個々に聞き、届けられた意見や提案は内容に応じて職員間で共有しケアの改善・向上に活かしています。管理者が、職員の頑張りを承認し、働く職場環境は、職員の士気を高め、定着率の高さにも表れています。外国人職員の雇用により、職員同士が互いに認めあい理解しあって、良い刺激となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを作成し面談をする機会を作ってコミュニケーションを図っています。またスキルアップに対する相談や、目標をもって働くことができるように法人がもつ様々なサービスに対しても視野を広げて相談にのってくれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での事例発表会や勉強会などでスキルアップに取り組んでいます。また資格取得に対してバックアップできるように、その都度情報を集めサポートしてくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属。空き状況の確認や、情報交換の場となっている。以前のように集まることは減っているが、必要な時には相談や協力出来る体制がある為心強い		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時によくある質問を含めた説明をしている。また時間をかけてニーズを確認することで、他サービスとの違いやグループホームだから出来ること、アルソーレの特徴も含め伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、ニーズにこたえるための手段をいくつか用意し説明するように心掛けています。そのうえで良い方法を選んでいただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを大切に、生活の中で自己選択、決定できる機会を多く持つようにしています。興味を持ってもらえそうな取り組みの工夫を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全てをホームで抱え込むのではなく、家と行き来しながらなど、ともに支える、遠慮なく参加できる、お願いできる環境を大切に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や久しぶりに会う親戚などでは、来設の情報を家族と共有し、事前に状態を伝えて頂いたりすることでお互い良い時間を過ごせるように配慮しています。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。知人の訪問を受ける利用者、馴染みの美容室や墓参り行く利用者等があり、少しでも関係が長く継続するよう支援しています。毎月自宅に外泊する利用者もいます。入居前は詩を作って文芸誌に掲載する等の執筆活動をしていた利用者はパソコンを居室に持ち込んでいます。自分の詩を朗読する利用者の表情は、自信と誇りに溢れ、いきいきしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り出来る作業、楽しくコミュニケーションできるなど、その日の状態に応じて座席の位置など工夫しながら自然に関われるように雰囲気作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設への支援がほとんどであるため、情報の共有もあり、入院から状態が回復後特養に戻ってきていただいたことも多い。サービスが終了した家族が訪ねてきてくれたり、親戚の申し込み等リピーターのように活用して下さる人も増えてきた。又大きくなった孫が実習に来るなどもあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中でも、生活歴や環境なじみを重視して聞き取りを行い、日々のかかわりの中で出てくる言葉や名前・話題等、家族職員と共有して気付きや関わりのヒントにしている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」という法人理念の下、「その人らしさ」を常に考え、利用者の意向や希望を汲み取ることを心がけています。入居時に利用者・家族から生活歴や暮らし方の希望・意向を聞いてフェイスシートに記録しています。主任は職員に、「普段をよく見ること・気づくこと」の大切さを伝えています。離職者が少なく、利用者との職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、家族間で共有しながら書き込んでいただくように伝えている。なぜそれが必要なのか、どのように活かしているのかを伝えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりの中で思いや変化に対する気付きを大切に、情報を共有しながら、出来ることが多く自立しているからこそ必要な支援にも注意して目を向けるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者にはそれぞれ担当がついており、毎月送付している手紙には担当が情報を集めた内容を記入、生活の様子が伝わるように記入しています。手紙だけでなく、面会時にも状況をお伝えして確認しています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。日常の関わりや家族との会話の中からの気づきや発見も介護計画に反映するよう努めています。計画作成担当者は、計画作成にあたり「利用者の思いの代弁や関わり方のヒントになる介護計画」を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中で見られる変化に注意し言動、行動、体調の変化など、記録で共有し必要な対応が素早くできるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設ならではの協力体制で必要に応じた柔軟な対応を実践することができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム訪問の理美容の活用と併用してなじみの美容室を利用されている利用者もいる。運営推進会議では地域の情報やイベントなどを常に伝えてくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には希望される医療、緊急時の対応を確認。ホームでできる医療、関係機関で出来る医療、家族協力が必要な専門医への受診やかかりつけの希望など、その都度相談しながら行っています。	協力医療機関より週2～3回の訪問診療があり、それぞれ月2回受診しています。他に、希望があれば歯科は週1回、皮膚科は月1回の往診もあります。入居前からのかかりつけ医へは家族付き添いで受診しています。必要時は職員付き添いも行っています。看護師を職員として配置し、日々の健康管理を行い、24時間オンコール体制を整えて、医療連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が介護にも積極的に参加してくれていることで医療の視点で日々の変化にも素早く柔軟に対応してくれている。他部署看護師・診療所の看護師・病院の看護師とも連携をとってくれており利用者をみんなで支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会と看護師・医師・相談員・栄養士に状態の確認を行い、退院に向けての助言や、対応できること、代替えで出来ること等相談させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針をもとに説明を行い実際に対応が必要な状態になれば家族・医師・看護師・栄養士の連携の下援助の方向性を確認しつつ、出来る限りの必要な援助に努めています。又状態により必要な環境も視野に入れより良い方向に支援できるように努めています。	法人の「看取りに関する指針」や「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って契約時に本人・家族に説明しています。重度化や終末期には、その都度、主治医・家族と話し合いの場を持ち意向を尊重しています。看取りでは、職員はその過程を経て学び、成長に繋げています。病院から食事摂取ができない状況でホームに退院し、立ったり、好みのものを食べたりすることができるようになった後、最期を迎えた利用者もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習会で心肺蘇生法やAEDの使用法を学び、ホーム内の緊急マニュアルをその都度見直して確認ししもの時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員を設置。マニュアルの作成から見直し年2回の消防訓練。停電検査時に震災津波を想定した動きを確認し、必要なものをその都度そろえています。近隣保育園との備蓄確認や避難訓練で動きの確認も行っています。	火災の避難訓練は年2回(6月と12月)、夜間も想定し、うち1回は消防署の協力得て実施しています。災害対策委員会の会議では、訓練の反省や感想、課題も記録しています。自然災害においても、地震発生から津波避難までの行動(日中・夜間)を想定しマニュアル化しています。避難は各ユニットのベランダに誘導し、救助を待ちます。現在、備蓄品は併設施設と併せて7階で保管し、期限を管理しています。また近隣の保育所の避難場所として協力し、保育園の備蓄品(おもちゃ・食品)も保管しています。	今後、地域で開催される地域防災訓練にホームからも参加する予定ですが、実現し地域との連携が深まることが期待されます
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等それぞれの状態に配慮しながら個別に対応しています。倫理・サービスマナーや個人情報保護等勉強会も取り入れ、理解を深め職員の周知徹底に努めています。	人権や認知症について研修を行い、本人の選ぶ能力・できる能力を活かす事を大切に、一人ひとりを尊重した支援を心がけています。利用者の「食べていない」訴えに対しても、否定することなく、適量の飲み物や食べ物を提供することで心身の充足感につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のちょっとした場面で、自分で選ぶ、決めるということを大切にしています。おやつを選ぶ、飲み物を選ぶ、服を選ぶ等、意識して取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の予定を固めるのではなく、天候や気温、利用者の調子や気分、職員の状況に合わせて支援できるように臨機応変ということを常に大切にしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身支度援助だけではなく行事の際には違った気分で参加できるようにおしゃれを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時にアレルギーや嗜好調査を行い、献立によっては別メニューの提供や状態に応じた軟菜・一口・刻み・トロミ・ソフト・ミキサー等の提供もあり、朝は定番メニューとパン食を選択していただいています	主菜副菜は、併施設と併せて厨房で一括調理したものを各ユニットで盛り付けて提供し、ご飯はユニットで炊飯しています。体調の変化などによる食事形態(一口・刻み食・ソフト食等)の急な変更も、厨房で即対応してもらうことが出来ます。年1回、寿司職人を招いて催す寿司パーティーでの握り寿司や、おせち料理・ひな祭り寿司ほか、季節に合わせた献立が人気です。どら焼き・ミックスジュースなどが並ぶ、月1回のおやつバイキングも楽しみの一つになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士が立てた献立のもと、摂取量の確認と嗜好の確認を行いながら、管理栄養士・看護師・医師との連携の下アドバイスや指示を受けています。水分は好みや嚥下状態に合わせて種類を準備しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやガーゼなどの道具を使い分けて個々にあった援助方法で介助しています。希望者は毎週金曜日の歯科往診で口腔ケアと状態の確認を行い治療やアドバイス、口腔ケアの指導などを受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期と随時、必要な排泄用品で援助を行い状況を記録。可能な限りトイレに座ることを大切に援助しています。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりのパターンを把握し、できる限りトイレで排泄することを大切にしています。吸収力のある布パンツを使用し、漏れがひどくなったら紙パンツへと移行する援助もあります。トイレは各ユニットに5か所、うち1か所は車いす対応となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を把握し主治医・栄養士に相談。オリゴ糖・緩下剤・座薬等それぞれに合ったものを活用し援助しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は固定せず、臨機応変に対応できるよう準備しています。少なくとも3日に1回は必ずと声をかけ援助。季節に応じてしょうぶ湯やゆず湯等季節を感じていただけるようにしています。	概ね3日に1回、午前に入浴の支援をしています。希望によって午後や毎日の入浴、同性介助も可能です。個浴の浴室は広く、重度化してもストレッチャーを利用して2人介助で入浴することができます。季節のしょうぶ湯やゆず湯も楽しんでいます。また、好みのボディソープやシャンプーの持ち込みも可能です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないときは共有スペースでお茶しながら過ごしていただいています。それぞれのペースで負担のないよう配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用の記録ファイルに服薬内容の一覧とお薬シールをまとめています。指示や変更を申し送りして統一。服薬チェック表の記録と、処置票の記録で漏れの内容を確認。管理は看護師中心に行い、飲みづらさや使用状況に変化があれば医師・薬剤師にその都度相談しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近では歌・体操・塗り絵・間違い探し・ランプ・かるた・漢字カード等 また季節の制作物は壁面に飾ったり、区役所のイベントで展示したり、見て頂ける場があることで張り合いにもなっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や理美容・外食・外泊については家族とともに出かけられています。通院はその都度職員や家族と出かけています。余暇活動としては近隣のイベントなどに少しづつ参加。その他ベランダの園芸。花を摘んだり飾ったりデイサービスに持って行ったりして楽しんでいます。	家族とのつながりを大切にして、通院や買い物、外泊や外食を支援しています。秋には職員と一緒に施設周りの落ち葉の掃除をしたり、春には近くの公園の桜並木を散策しています。外出時の近隣の子どもたちとのふれあいも楽しみのひとつです。各ユニットが面する広いベランダでは、育てた花を摘んで飾ったり、夕日を浴びたり月見をしたり、また時には花火を鑑賞する日もあって、それぞれの季節を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解と本人の希望で自身と家族の管理の下、少額のお金を管理されている利用者もいます。支払い作業をされることはほとんどありませんが、持っている安心感が大切と思っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたり、お手紙が届いた時には職員と一緒にお礼の電話を入れています。また海外に在住の孫から週1回程度電話がある利用者もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加えて、週1回以上のシーツ交換。木曜日・金曜日は消毒日に充てており、ゴミ箱・バケツ・加湿器などの洗浄とキッチンの消毒などを行っています。室温管理・換気には特に注意しています。季節感を感じていただけるように飾りや壁面など工夫しています。	広くて明るいリビングは、皆が集い食事をしたり和やかに過ごせるスペースとなっています。清潔な空間づくりに力を入れて、定期的なゴミ箱の洗浄やバケツやキッチンその他の消毒日を設定し、衛生管理に努めています。においにも気を配り、1日2回の消毒と換気をしています。各ユニットの壁面には飾り物を工夫し、季節の移り変わりを感じられる温かな雰囲気づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く、好きな場所で過ごせるようにあちこちに椅子やソファを配置。座席も状態に合わせて臨機応変に配置変更しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の居室づくりは家族に任せています。新しいものを買そろえるよりも、家にあるなじみのものをそろえていただく事の大切さをその都度説明しお願いしています。	5階はフローリングの洋室、6階は畳敷きの和室です。ベッド・整理ダンス・防災カーテンはホームで設置、クローゼット・洗面台・エアコン・照明は備え付けです。利用者はそれぞれ、テレビや仏具・テーブル等を持ち込み、好きな写真や仏像を飾っています。相撲観戦によく出かけていた利用者の部屋には鼻唄の力士のポスターが貼られています。一人ひとりのスタイルで、居心地良く過ごせる部屋づくりを楽しみ、「ここに居たら寂しくない」と満足そうに話す利用者がいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫次第で出来ることを大切に、案内板や張り紙を作ったり、リスク管理では先回りして環境を整えることで安全に配慮しています。		